

## 4. 別添資料 (4. 生物圏科学研究科)

1. 研究科の人材養成目的	…………… 1
2. 大学院教育に関する広島大学と研究科の中期目標の対応表	…………… 1
3. 連携機関の一覧	…………… 2
4. アドミッション・ポリシー	…………… 2
5. 専攻別入学者数の推移（定員充足率の推移）	…………… 3
6. カリキュラム・ポリシー	…………… 3
7. 履修方法	…………… 3
8. 講座・教育科目・授業科目の一覧表	…………… 4
9. 英語で行う講義科目一覧	…………… 6
10. 社会人院生数の推移	…………… 6
11. 研究科のディプロマ・ポリシー	…………… 7
12. 学外学位論文審査委員	…………… 7
13. 学位論文の作成プロセス	…………… 8
14. 院生があげた顕著な学業成績	…………… 9
15. 博士課程修了時アンケート結果（自由記述）	…………… 10

別添資料 1 研究科の人材養成目的

(出典：広島大学大学院生物圏科学研究科細則)

(教育研究上の目的)

第2条 研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

	博士課程前期	博士課程後期
研究科	自然と調和する持続的な生物生産活動の創出と展開，生物機能・生物資源の活用とその高度利用技術の開発及び生物圏内の循環系を評価・予測・制御する技術の開発に関する教育・研究を实践し，地域・国際社会における応用生物学・環境学系の主に高度専門技術者として，時代と社会の要請に応え得る人材を養成する。	自然と調和する持続的な生物生産活動の創出と展開，生物機能・生物資源の活用とその高度利用技術の開発及び生物圏内の循環系を評価・予測・制御する技術の開発に関する教育・研究を实践し，地域・国際社会における応用生物学・環境学系の主に研究者として，時代と社会の要請に応え得る人材を養成する。
生物資源科学専攻	資源生物の生体機能と生態の解明，先端的生物生産技術の開発及び循環型生物生産社会システムの構築のための理論と方法を習得させる教育・研究を行うことにより，生物生産に関する高度な知識・技能を習得し，それらの実践的な応用を通して，社会に貢献できる人材を養成する。	資源生物の生体機能と生態の解明，先端的生物生産技術の開発及び循環型生物生産社会システムの構築のための理論と方法をもとに，研究能力及び応用展開能力を習得させる教育・研究を行うことにより，生物生産に関する高度な知識・技能を習得し，それらの実践的な応用と発展を通して，社会に貢献できる人材を養成する。
生物機能開発学専攻	分子・細胞の視点から生物機能を理解して活用するため及び食資源の視点から生物資源を理解して活用するための理論と方法を習得させる教育・研究を行うことにより，生物機能及び生物資源の活用に関する知識・技能を習得し，それらの実践的な応用を通して，社会に貢献できる人材を養成する。	分子・細胞の視点から生物機能を理解して活用するため及び食資源の視点から生物資源を理解して活用するための先進的な理論と方法，研究能力及び応用展開能力を習得させる教育・研究を行うことにより，生物機能及び生物資源の活用に関する高度な知識・技能を習得し，それらの応用と発展を通して，社会に貢献できる人材を養成する。
環境循環系制御学専攻	生物圏内の循環系の評価・予測・制御について，学外機関と連携しつつ教育・研究を行い，特に山・川・海にまたがる瀬戸内圏をモデル圏域とすることにより，地球規模に及ぶ広域環境を俯瞰でき，かつ，地域の要請にも応え得る人材を養成する。	生物圏における物質循環及び生物生産に関する評価・予測・制御について，地域から地球規模，過去から未来など多様な時空間尺度での教育・研究を行うことにより，地球環境や社会経済環境の変動に関して高度に専門的・即応的・国際的な対応能力を有する人材を養成する。

別添資料 2 大学院教育に関する広島大学と研究科の中期目標の対応表

(出典：生物圏科学研究科作成)

広島大学中期目標	生物圏科学研究科中期目標
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p><b>1 教育に関する目標</b></p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標 (大学院課程) 入学者受入れの方針に基づき，優秀かつ多様な人材の受入れを行う。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (大学院課程)</p> <p>① 各課程・専攻における人材養成像に基づき，グローバル化時代に対応した体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>② 学位授与の方針に基づき，優れた研究者と社会的に評価される能力を備えた高度専門職業人を養成する。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し，教育の質の向上を図る。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p>	<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p><b>1 教育に関する目標</b></p> <p>(1) 入学者選抜に関する目標 (大学院課程) アドミッションポリシーに基づき，成績調査と，総合的なアンケート調査を検討する。</p> <p>(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (大学院課程)</p> <p>① 各専攻における人材養成目標に基づき，社会の多様な要望に応じて，教育グローバル化時代に対応した体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>② 研究科人材目標に基づき，優れた研究者と社会的に評価される能力を備えた高度専門職業人を養成する。</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>② FDを充実し，教育の質の向上を図る。</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>② 学生の経済的支援を充実する。</p> <p>③ 在学生のみならず既卒者も含めたキャリア支援体制を構築する。</p>

別添資料3 論文指導体制

(出典:生物圏科学研究科作成)

(1)博士課程前期:論文指導体制(指導教員一人当たりの学生数)

専攻		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度	
		指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数
生物資源科学専攻	専任教員	31	2.13人	34	1.79人	33	1.39人	34	1.35人	32	1.81人	35	1.91人
	客員教員	0		0		0		0		0			
	指導教員	31		34		33		34		32			
	学生数(B)	66		61		46		46		58		67	
生物機能開発学専攻	専任教員	25	2.55人	26	2.16人	25	2.50人	25	2.64人	25	2.75人	22	3.40人
	客員教員	6		6		3		3		3			
	指導教員	31		32		28		28		28			
	学生数(B)	79		69		70		74		77		85	
環境循環系制御学専攻	専任教員	19	0.93人	19	0.93人	19	1.03人	16	1.35人	17	1.23人	18	1.44人
	客員教員	11		11		11		10		9			
	指導教員	30		30		30		26		26			
	学生数(B)	28		28		31		35		32		39	
計	専任教員	75	1.88人	77	1.65人	77	1.62人	75	1.76人	74	1.94人	75	2.20人
	客員教員	17		17		14		13		12			
	指導教員	92		96		91		88		86			
	学生数(B)	173		158		147		155		167		191	

\*1 専任教員は助教以上(特任を除く)で毎年4月1日現在の員数

\*2 客員教員は連携講座に所属する教員で主指導または副指導を担当する者

\*3 指導教員数は、専任教員、客員教員の合計

\*4 学生数は毎年5月1日現在

(2)博士課程後期:論文指導体制(指導教員一人当たりの学生数)

専攻		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度	
		指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数	指導可能教員数	指導教員一人当たり学生数
生物資源科学専攻	専任教員	29	1.69人	30	1.57人	30	1.47人	31	1.26人	29	1.45人	28	1.68人
	客員教員	0		0		0		0		0			
	指導教員	29		30		30		31		29			
	学生数(B)	49		47		44		39		42		47	
生物機能開発学専攻	専任教員	22	0.86人	23	0.76人	23	0.62人	23	0.65人	23	0.73人	21	0.92人
	客員教員	6		6		3		3		3			
	指導教員	28		29		26		26		26			
	学生数(B)	24		22		16		17		19		22	
環境循環系制御学専攻	専任教員	17	0.93人	17	0.86人	17	0.61人	14	0.50人	15	0.71人	15	0.79人
	客員教員	11		11		11		10		9			
	指導教員	28		28		28		24		24			
	学生数(B)	26		24		17		12		17		19	
計	専任教員	68	1.16人	70	1.07人	70	0.92人	68	0.84人	67	0.99人	64	1.16人
	客員教員	17		17		14		13		12			
	指導教員	85		87		84		81		79			
	学生数(B)	99		93		77		68		78		88	

\*1 平成22年度、23年度については、旧専攻(生物圏共存科学専攻、生物資源開発学専攻)の学生は除く

\*2 参考:旧専攻学生数(生物圏共存科学専攻H22;7人、H23;2人;生物資源開発学専攻H22;2人)

\*3 客員教員は連携講座に所属する教員で主指導または副指導を担当する者

\*4 専任教員数は助教を除く教員(内部規定により、助教は博士課程後期学生の論文指導に携わることができない)

\*5 指導教員数は、専任教員、客員教員の合計

\*6 学生数は毎年5月1日現在

別添資料4 アドミッション・ポリシー(出典:生物圏科学研究科細則)

【アドミッション・ポリシー】

生物圏における多様な生物や諸現象およびフィールド科学に関心があり、次のような意欲と資質をそなえた大学院生を求めます。

- 1) 食料生産とそのための環境保全・修復の分野において、チャレンジ精神が旺盛である。
- 2) 生物の多様な機能の解明や有効利用に関心が高い。
- 3) 課題についての的確な思考力と解決能力をそなえている。
- 4) 知の体系に裏打ちされた倫理観をもっている。

別添資料 5 専攻別入学者数の推移（定員充足率の推移）

（出典：生物圏科学研究科作成）

博士課程前期課程（各年度11月1日現在）							
専攻名	入学定員	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
生物資源科学専攻	30	33	26	21	28	30	35
		110.0%	86.7%	70.0%	93.3%	100.0%	116.7%
生物機能開発学専攻	24	35	30	37	36	40	45
		145.8%	125.0%	154.2%	150.0%	166.7%	187.5%
環境循環系制御学専攻	19	20	10	19	15	15	22
		105.3%	52.6%	100.0%	78.9%	78.9%	115.8%
合計	73	88	66	77	79	85	102
		120.5%	90.4%	105.5%	108.2%	116.4%	139.7%

博士課程後期課程（各年度11月1日現在）							
専攻名	入学定員	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
生物資源科学専攻	12	13	11	7	12	13	16
		108.3%	91.7%	58.3%	100.0%	108.3%	133.3%
生物機能開発学専攻	12	7	4	5	7	7	10
		58.3%	33.3%	41.7%	58.3%	58.3%	83.3%
環境循環系制御学専攻	9	5	9	5	1	6	7
		55.6%	100.0%	55.6%	11.1%	66.7%	77.8%
合計	33	25	24	17	20	26	33
		75.8%	72.7%	51.5%	60.6%	78.8%	100.0%

上段：現員数/下段：定員充足率  
教育・国際室（学生数調11/1）を基に改変・作成

別添資料 6 カリキュラム・ポリシー（出典：生物圏科学研究科細則）

博士課程前期	博士課程後期
<p>1) 研究科および専攻が目的とする食料・環境・応用生命科学分野の高度な専門知識と専門技術を、専攻が編成した講義、演習、実験実習により習得させる。</p> <p>2) 修士論文研究に積極的に取り組むことで、問題の理解と科学的な解決の方策、論理的思考、専門分野の先端的な知識と実験技術、科学倫理を学ばせる。</p> <p>3) 多様な学生が幅広い生物圏科学領域の科目を学ぶことができるように、各講義科目を1単位とし、基礎的科目と高度な水準の科目を編成する。</p> <p>4) 研究成果を国内外の学会等で発表することを推進し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>5) 外国人特任教員による講義・演習をはじめとし、英語による講義・演習を積極的に取り入れる。</p>	<p>1) 独創的、かつ先端的な博士論文研究に取り組むことで、問題の発見と科学的な解決の方策、論理的思考、専門分野の深い知識と実験技術、科学倫理を学ばせる。</p> <p>2) 自立的に研究の構想、実験の実施、成果のまとめができる力を養い、自ら主体的に研究を展開することを習得させる。</p> <p>3) 研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表することを推進し、プレゼンテーション能力と学術論文をまとめる力を高めさせる。</p>

別添資料 7 履修方法（出典：学生便覧）

博士課程前期	博士課程後期
<p>1. 必修科目 10単位</p> <p>2. 選択必修科目 12単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院基礎科目より1科目 1又は2単位</li> <li>・コア科目より <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習 2単位</li> <li>・実習 1単位</li> <li>・上記以外のコア科目 8単位</li> </ul> </li> </ul> <p>3. 選択科目 8単位以上</p> <p>※必修科目：特別研究（8単位）と共同セミナー（A）（2単位）</p> <p>選択必修科目：大学院基礎科目と専攻コア科目の講義、主指導教員指定の演習・実験実習</p> <p>選択科目：研究科内外の科目</p>	<p>1. 必修科目 2単位</p> <p>2. 選択必修科目 2単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習 2単位</li> </ul> <p>3. 選択科目 4単位以上</p> <p>必修科目：共同セミナー（B）（2単位）</p> <p>選択必修科目：主指導教員指定の演習</p> <p>選択科目：研究科内外の科目</p>

別添資料 8 講座・教育科目・授業科目の一覧表 (出典：生物圏科学研究科学生便覧)

生物資源科学専攻 Department of Bioresource Science			
講 座	教 育 科 目	授 業 科 目	
陸域動物生産学講座 Animal Science	家畜育種遺伝学 Animal Breeding and Genetics	家畜育種学 応用動物遺伝学	
	家畜生殖学 Animal Reproduction	家畜生殖細胞生理学 家畜生殖機能開発学	
	家畜飼養学 Animal Nutrition and Feeding	家畜飼養学 家畜栄養生理学	
	家畜管理学 Animal Behavior and Physiology	家畜環境生理学 家畜環境管理学	
	家畜生体機構学 Animal Histophysiology	家畜生体機構学 家畜機能調節学	
	講座共通	陸域動物生産学演習 陸域動物生産学実験実習	
	水圏生物生産学講座 Aquatic Biology	水族生理学 Fish Neurobiology	魚類神経生理学 神経行動学
		水族病理学 Aquatic Pathobiology	水族感染症学 水族病原微生物学 魚類免疫学
水族生態学 Benthos Ecology		水界動物生態学 餌料生物生態学	
水圏資源生物学 Biology of Aquatic Resources		水産資源生物学 亜熱帯魚類生態学	
水族生化学 Aquatic Biochemistry		水族生化学 応用生物化学	
水産増殖学 Aquaculture		水産資源培養学 水産応用増殖学	
講座共通		水圏生物生産学演習 水圏生物生産学実験実習	
食料資源経済学講座 Food and Resource Economics		食料生産管理学 Food Production Management	食料資源管理学 食料生産経済学
		食料市場学 Agricultural Marketing	食料消費経済学 食料流通経済学
		講座共通	食料資源経済学演習 食料資源経済学実験
	瀬戸内圏フィールド科学講座 Field Science in Setouchi Areas	陸域生物圏フィールド科学 Terrestrial Field Science	家畜生産システム学 人間動物関係論
海域生物圏フィールド科学 Aquatic Field Science		海洋生物多様性論 水族環境生理学	
講座共通		瀬戸内圏フィールド科学演習 瀬戸内圏フィールド科学実習	

生物機能開発学専攻 Department of Biofunctional Science and Technology		
講 座	教 育 科 目	授 業 科 目
分子生命開発学講座 Molecular and Applied Biosciences	免疫生物学 Immunobiology	応用免疫学 分子免疫学
	酵素化学 Enzyme Chemistry	植物分子生命科学 蛋白質機能利用学
	微生物機能学 Microbial Biochemistry	遺伝子制御学 微生物機能利用学 分子細胞機能学
	生態機能物質化学 Ecological Biochemistry	生物間情報物質論 天然生物活性物質論
	生体分子機能学 Ecological Biochemistry	遺伝子機能構造学 蛋白質構造論
	応用分子細胞工学 Applied Technology for Molecular and Cellular Biology (林原生物化学研究所)	細胞機能開発学 応用生命工学 分子生物工学
	講座共通	分子生命開発学演習 分子生命開発学実験

食資源科学講座 Food Science and Biofunctions	海洋生物資源化学 Marine Bioresource Chemistry	海洋生化学資源学 水産食品衛生化学
	動物資源化学 Food Chemistry	動物資源生化学 食品機能化学
	食品物理学 Biomolecular Physical Chemistry	食資源物理学 食資源物理化学
	食品工学 Food Engineering	食品工学 食品プロセス工学
	食品衛生学 Food Microbiology and Hygiene	食品衛生微生物学 食品病原遺伝子学
	分子栄養学 Molecular Nutrition	栄養生化学 食品分子生物学
	醸造資源開発学 Brewing Science and Technology (酒類総合研究所)	食資源環境保全学 醸造微生物工学 醸造資源利用学
	講座共通	<b>食資源科学演習</b> <b>食資源科学実験</b>

環境循環系制御学専攻 Department of Environmental Dynamics and Management

講 座	教 育 科 目	授 業 科 目	
環境予測制御論講座 Modeling and Management of Environmental Dynamics	陸域・大気循環予測論 Land-Atmosphere Interactions	陸域・大気循環予測論Ⅰ (温暖化・有害物質循環論) 陸域・大気循環予測論Ⅱ (二酸化炭素循環論)	
	気水圏循環変動予測論 Atmosphere-Hydrosphere Interactions	気水圏循環変動予測論Ⅰ (気水圏物質循環計測論) 気水圏循環変動予測論Ⅱ (気水圏化学計測論)	
	水域循環制御論 Aquatic Ecosystem Management	水域循環制御論Ⅰ (栄養塩循環制御論) 水域循環制御論Ⅱ (食物連鎖系物質循環論) 水域循環制御論Ⅲ (沿岸海洋学)	
	陸域循環制御論 Nutrient Cycling in Terrestrial Ecosystem	陸域循環制御論Ⅰ (植物栄養循環制御論) 陸域循環制御論Ⅱ (植物機能制御論) 陸域循環制御論Ⅲ (植物無機栄養学)	
	海洋環境制御論 Management of Coastal Marine Environment (産業技術総合研究所中国センター)	海洋環境制御論Ⅰ (瀬戸内海環境制御論) 海洋環境制御論Ⅱ (海域負荷制御論) 海洋環境制御論Ⅲ (海域機能制御論)	
	陸域生態系制御論 Land Ecosystem Management (農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター)	陸域生態系制御論Ⅰ (土壌環境制御論) 陸域生態系制御論Ⅱ (耕地気象制御論) 陸域生態系制御論Ⅲ (生物環境制御論)	
	講座共通	<b>環境予測制御論演習</b> <b>環境予測制御論実習</b>	
	環境評価論講座 Assessment of Environmental Dynamics	海洋生態系評価論 Marine Ecosystem Dynamics	海洋生態系評価論Ⅰ (海洋生態系評価論) 海洋生態系評価論Ⅱ (食物連鎖機構論) 海洋生態系評価論Ⅲ (海洋微生物動態論)
		海洋生態系進化論 Marine Ecosystem and Evolution (海洋研究開発機構)	海洋生態系進化論Ⅰ (深海生態学) 海洋生態系進化論Ⅱ (深海生物学) 海洋生態系進化論Ⅲ (海洋共生生物学)
		植物環境評価論 Evaluation of Plant Environment	植物環境評価論Ⅰ (植物環境評価論)
		植物環境分析学 Plant Environmental Science	植物環境分析学Ⅰ (土壌環境評価論) 植物環境分析学Ⅱ (植物養分循環評価論)
		微生物環境評価論 Assessment of Microbial Environment	微生物環境評価論Ⅰ (土壌微生物環境評価論)
		講座共通	<b>環境評価論演習</b> <b>環境評価論実習</b>

別添資料 9 英語で行う講義科目一覧（出典：生物圏科学研究科作成）

1	水圏生態環境学入門編 Aquatic Environmental Ecology: Introduction	前期A, 木7-8	山本 民次 T. Yamamoto, Prof.
2	水圏生態環境学応用編 Aquatic Environmental Ecology: Advanced	前期B, 木7-8	山本 民次 T. Yamamoto, Prof.
3	食物連鎖機構論 Marine Food Web Dynamics	後期A, 火3-4	長沼 毅 T. Naganuma, Assoc. Prof.
4	食物連鎖機構論実践演習 Marine Food Web Dynamics (Practical work)	後期B, 火3-4	長沼 毅 T. Naganuma, Assoc. Prof.
5	海洋微生物動態論 Marine Microbial Dynamics	後期A, 木1-2	小池 一彦 K. Koike, Assist Prof.
6	海洋微生物動態論実践演習 Marine Microbial Dynamics (on-board practice)	後期B, 木1-2	小池 一彦 K. Koike, Assist Prof.
7	Introduction to Environmental Issues in Japan	後期B, 水5-6	中坪 孝之 T. Nakatsubo, Prof.
8	留学生のための生物生産学基礎講座 Basics of Biosphere Science for International Student	前期AB, 水1-2	河合 幸一郎 K. Kawai, Prof.
9	留学生のための生物圏科学演習 General Biosphere Science (2) Seminar on biosphere sciences for international students	後期AB, 水1-2	斉藤 英俊 H. Saito, Assoc. Prof.
10	分子細胞機能学A Molecular Cell Science: Strategy for Environmental Adaptation-A	後期A, 月3-4	三本木 至宏 Y. Sambongi, Prof.
11	分子細胞機能学B Molecular Cell Science: Strategy for Environmental Adaptation-B	後期B, 月3-4	三本木 至宏 Y. Sambongi, Prof.
12	General Biosphere Science (1)	前期	Lawrence Liao, Lecturer
13	General Biosphere Science (2)	後期	Lawrence Liao, Lecturer
14	魚類社会生物学入門 Fish Sociobiology : Introduction	後期A, 木5-6	坂井 陽一 Y. Sakai, Prof.
15	魚類社会生物学特論 Fish Sociobiology : Advance	後期B, 木5-6	坂井 陽一 Y. Sakai, Prof.
16	浅海魚類生産学 Seagrass Bed Ecology (Subject is not fixed yet)	後期A, 月3-4	小路 淳 J. Shoji, Assoc. Prof.
17	沿岸生物圏フィールド科学演習 Seminar in Coastal Field Science	後期B, 月3-4	小路 淳 J. Shoji, Assoc. Prof.
18	Introduction on the Biogeochemical Marine Systems	後期A, 木3-4	三瓶 真 M. Sanpei Assis. Prof.
19	Advanced Biogeochemical Marine Systems	後期B, 木3-4	三瓶 真 M. Sanpei Assis. Prof.
20	気水圏物質循環論Ⅰ Marine and Atmospheric Chemistry I	前期A, 木3-4	佐久川 弘 H. Sakukawa, Prof.
21	気水圏物質循環論Ⅱ Marine and Atmospheric Chemistry II	前期B, 木3-4	佐久川 弘 H. Sakukawa, Prof.
22	多文化セミナー（A）	後期集中	長沼 毅
23	多文化セミナー（B）	後期集中	長沼 毅
大学院共通科目として提供している英語科目			
24	Practical work on writing reports and presentation(1)	前期, 水9-10	Lawrence Liao, Lecturer
25	Practical work on writing reports and presentation(2)	後期, 水9-10	Lawrence Liao, Lecturer

生物圏において、常時英語で開設している科目

別添資料 10 社会人院生数の推移（出典：生物圏科学研究科作成）

博士課程前期（各年度5月1日）

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
生物資源科学専攻	1	1	2	2	2	1
生物機能開発学専攻	0	0	0	0	0	0
環境循環系制御学専攻	0	0	1	1	1	0
合計	1	1	3	3	3	1

博士課程後期（各年度5月1日）

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
生物資源科学専攻	18	20	19	15	14	16
生物機能開発学専攻	5	7	9	5	3	3
環境循環系制御学専攻	9	11	8	5	9	9
*生物圏共存科学専攻	5	2				
*生物資源開発学専攻	3	2				
合計	40	42	36	25	26	28

\*旧専攻

別添資料 11 研究科のディプロマ・ポリシー（出典：生物圏科学研究科作成）

博士課程前期	博士課程後期
<p>所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位数を修得し、かつ、本研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に、修士(農学)または修士(学術)の学位を与える。博士課程前期修了には下記の分野において、幅広い専門知識と研究技術および技術者倫理等を習得し、研究成果を国内外の学会等で発表するとともに、論文作成力、プレゼンテーション力を有することを目安とする。</p>	<p>所定の年限在学し、研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に、博士(農学)または博士(学術)の学位を与える。博士課程後期修了には下記の分野において、研究を自立して行うために必要な幅広い専門知識と研究技術、専門分野における問題の理解と科学的な解決の方策、論理的思考法、高いコミュニケーション能力を通して、研究成果をまとめる力をそなえていること、さらに、自立した研究者・高度専門技術者として研究の成果を国内外の学会や学術誌に発表できる、プレゼンテーション能力や学術論文をまとめる力をそなえていることを目安とする。</p> <p>1) 食料・環境・応用生命科学分野における生命現象の機構、生物資源と生物機能の高度な活用</p> <p>2) 地域と世界の食料と環境問題、環境と調和した持続的な生物生産活動</p>

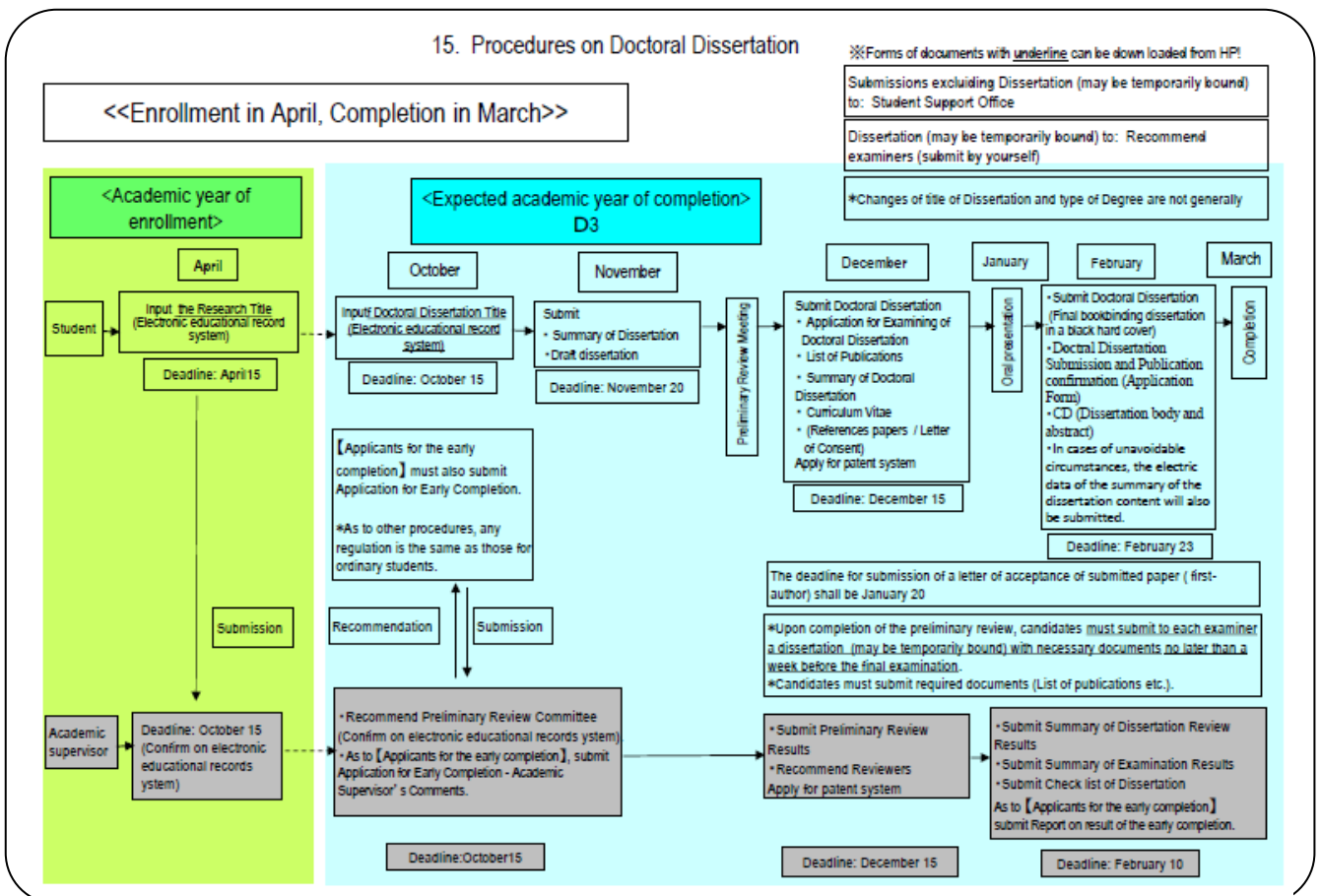
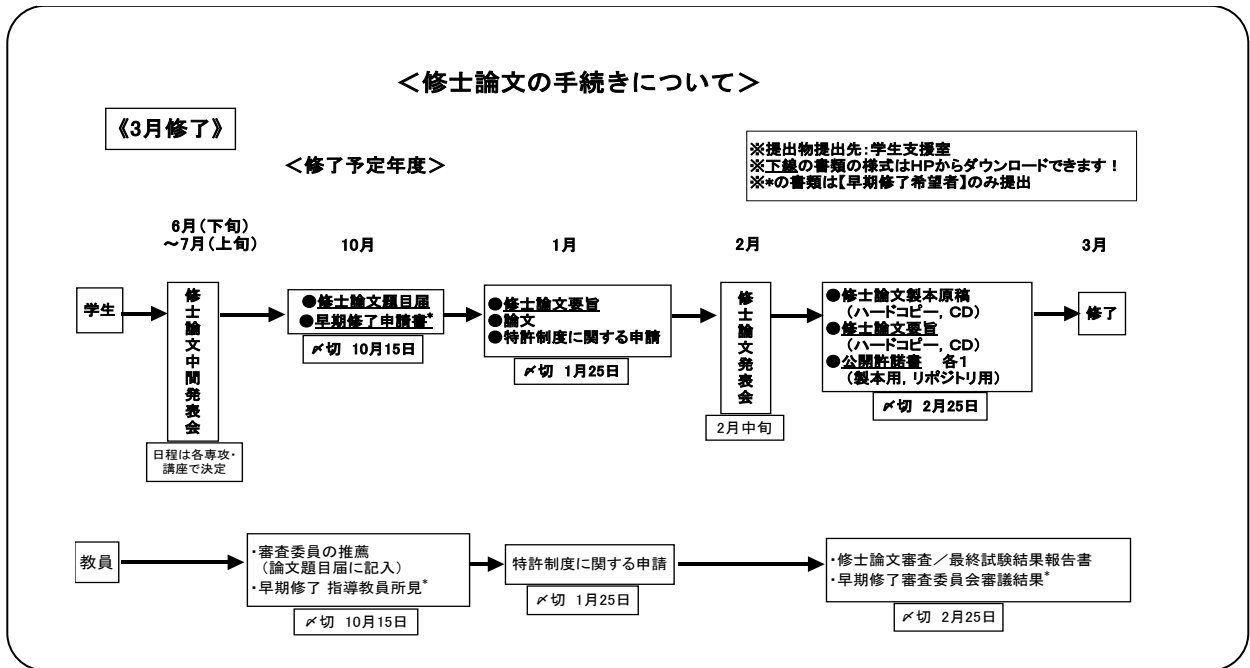
別添資料12 学外学位論文審査委員

(出典：生物圏科学研究科作成)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
学外委員 数/機関	(独) 農業生産資源研究所	ミネソタ州立大学		帝京科学大学	東京大学	九州大学
	日本獣医生命科学大学	県立広島大学			静岡大学	
		島根大学				
計	2	3	0	1	2	1



別添資料 13 学位論文の作成プロセス (出典：生物圏科学研究科学生便覧)



別添資料 14 院生があげた顕著な業績(出典：生物圏科学研究科作成)

学年	賞の名称	授与年月日
博士課程後期2年	第13回マリンバイオテクノロジー学会大会 優秀ポスター賞	平成 22 年 5 月 29 日
博士課程前期1, 2年	日本食品工学会第11回年次大会 優秀口頭発表賞	平成 22 年 8 月 19 日
博士課程後期2年	第1回(平成22年度)日本学術振興会 育志賞	平成 23 年 2 月 1 日
博士課程前期	第58回日本生態学会大会ポスター賞優秀賞	平成 23 年 3 月 10 日
博士課程前期	日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞	平成 23 年 3 月 1 日
博士課程前期	ASEV JAPAN日本ブドウ・ワイン学会 2010年度大会大会発表賞	平成 22 年 11 月 19 日
博士課程後期	第7回国際甲殻類学会 最優秀学生講演賞	平成 22 年 6 月 26 日
博士課程後期3年	広島大学長による学生表彰	平成 23 年 4 月 3 日
博士課程後期3年	The 2010 Awards of The D.N. Chorafas Foundation	平成 23 年 8 月 1 日
博士課程前期2年	日本食品工学会第12回年次大会優秀口頭発表賞	平成 23 年 8 月 6 日
博士課程前期1年	日本食品工学会第12回年次大会 優秀ポスター発表証	平成 23 年 8 月 6 日
博士課程後期3年	(社)日本土壌肥料科学会2011年度つくば大会ポスター賞(1)	平成 23 年 8 月 9 日
博士課程後期3年	(社)日本土壌肥料科学会2011年度つくば大会ポスター賞(2)	平成 23 年 8 月 9 日
博士課程後期	The Journal of Poultry Science Outstanding Paper Award	平成 23 年 8 月 25 日
博士課程後期2年	2011年度 水産海洋学会 研究発表大会・講演賞	平成 23 年 11 月 12 日
博士課程後期	関西畜産学会優秀発表賞	平成 23 年 12 月 22 日
博士課程前期	日本家禽学会優秀発表賞	平成 24 年 3 月 30 日
博士課程前期2年	日本ビタミン学会第64回大会学生優秀発表賞	平成 25 年 6 月 30 日
博士課程前期2年	日本食品工学会年次大会 優秀口頭発表賞	平成 24 年 9 月 10 日
博士課程後期3年	日本畜産学会奨励賞	平成 25 年 3 月 28 日
博士課程後期3年	The Best Student Poster Presentation Award	平成 25 年 6 月 7 日
博士課程前期1年	日本食品工学会年次大会 ポスター賞	平成 25 年 8 月 10 日
博士課程後期2年	日本家禽学会優秀発表賞	平成 25 年 9 月 8 日
博士課程前期2年	学生奨励賞(おかやまバイオアクティブ研究会)	平成 25 年 10 月 11 日
博士課程前期1年	日本動物遺伝育種学会・学会長特別賞	平成 25 年 10 月 12 日
博士課程前期2年	第31回 YEAST WORKSHOP ポスター賞	平成 25 年 11 月 2 日
博士課程前期2年	第四十六回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会 学生奨励賞	平成 25 年 11 月 17 日
博士課程前期1年	日本DNA多型学会優秀研究賞	平成 25 年 11 月 22 日
博士課程後期3年	平成25年度若手県三陸海域研究論文 学生の部 岩手県知事賞	平成 25 年 12 月 12 日
博士課程前期2年	日本サンゴ礁学会第16回大会最優秀ポスター賞	平成 25 年 12 月 14 日
博士課程前期2年	日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞	平成 26 年 3 月 1 日
博士課程後期3年	Award for best oral communication at the 12th International Conference on Copepoda	平成 26 年 7 月 18 日
博士課程前期	日本食品科学工学会誌 論文賞	平成 26 年 8 月 28 日
博士課程前期1年	日本食品工学会第15回(2014年度) 優秀ポスター発表賞	平成 26 年 9 月 1 日
博士課程前期1年	酵母遺伝学フォーラムポスター賞	平成 26 年 9 月 3 日
博士課程後期	関西畜産学会優秀発表賞	平成 26 年 9 月 8 日
博士課程	The Journal of Poultry Science優秀論文賞	平成 26 年 9 月 28 日
博士課程	第19回日本乳房炎研究会学術集会 高居百合子学術賞	平成 26 年 10 月 10 日
博士課程前期1年	STUDENT AWARD(アジア水産学会魚病部門)	平成 26 年 11 月 27 日
博士課程前期2年	日本畜産学会第119回大会 優秀発表賞	平成 27 年 3 月 28 日
博士課程前期2年	日本家禽学会優秀発表賞	平成 27 年 3 月 30 日
博士課程前期1年	日本食品工学会第16回(2015年度) 優秀ポスター発表賞	平成 27 年 8 月 24 日
博士課程前期1年	日本食品工学会第16回(2015年度) 優秀ポスター発表賞	平成 27 年 8 月 24 日
博士課程前期2年	日本食品工学会第16回(2015年度) 優秀口頭発表賞	平成 27 年 8 月 24 日
博士課程前期1年	日本食品工学会第16回(2015年度) 優秀ポスター発表賞	平成 27 年 8 月 24 日
博士課程前期2年	日本食品工学会第16回(2015年度) 優秀口頭発表賞	平成 27 年 8 月 24 日
博士課程前期2年生	関西畜産学会優秀発表賞	平成 27 年 9 月 3 日
博士課程前期1年	1st best oral presenter at the 6th International Seminar on Tropical Animal Production (ISTAP)	平成 27 年 10 月 21 日
博士課程後期2学年	未来博士3分間コンペティション2015 オーティエンス金賞	平成 27 年 11 月 1 日
博士課程後期3学年	未来博士3分間コンペティション2015 HIRAKU学長特別賞	平成 27 年 11 月 1 日
博士課程後期3学年	未来博士3分間コンペティション2015 広島大学大学院生推進賞	平成 27 年 11 月 1 日
博士課程後期	日本動物遺伝育種学会第16回大会 学会長特別賞	平成 27 年 11 月 7 日
博士課程後期2学年	Cephalopod International Advisory Council Conference 2015 Best Student Poster (日本語訳: 国際頭足類シンポジウム2015最優秀学生ポスター賞)	平成 27 年 11 月 14 日
博士課程前期1年	日本DNA多型学会優秀研究賞	平成 27 年 11 月 20 日
博士課程前期H26年修了	日本DNA多型学会優秀研究賞	平成 27 年 11 月 20 日
博士課程前期2年	日本土壌肥料学会関西支部講演会 優秀発表賞	平成 27 年 12 月 11 日
博士後期 3年	2015年度日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞	平成 28 年 2 月 22 日
博士課程前期1年	日本畜産学会第121回大会優秀発表賞	平成 28 年 3 月 28 日
博士課程後期2学年	日本生殖再生医学会 優秀発表賞	平成 28 年 3 月 6 日
博士課程後期2年生	日本畜産学会優秀発表賞	平成 28 年 3 月 28 日

別添資料 15 博士課程前期修了時アンケート結果（自由記述）

※抜粋

（出典：生物圏科学研究科作成）

質問：博士課程前期の講義科目は満足できましたか？（自由記述）	
平成24年度	平成25年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野の違う授業も受けることができたのでよかった。</li> <li>・自身の研究に活かせる内容の講義が多かったから</li> <li>・様々な分野について学べた。また、先生たちの講義への工夫がよかった。</li> <li>・様々な分野を学ぶことができたため。</li> <li>・履修したい科目は全て受けることができたため。</li> <li>・専門的な知識を修得できたため。</li> <li>・学部とは異なり、より専門的な内容を学ぶことができた点が良かったです。</li> <li>・科目によって、内容の濃さが違いすぎる。</li> <li>・自分の専門分野にそった講義を自分で選択して受講できたから。</li> <li>・自分の専門分野以外の話は興味深かった。</li> <li>・専門知識を深めることができたから。</li> <li>・分野外の授業でも分かりやすく説明してくれることが多かった。</li> <li>・幅広く知識が身に付いたから。</li> <li>・研究の時間を圧迫しないよう配慮されながらも、十分な内容の講義が多かったから。</li> <li>・興味のある科目を受け、自分の興味を満たすことができた。</li> <li>・選択科目から興味を持てる科目をとれたから。</li> <li>・興味のある分野について学ぶことができた。</li> <li>・先生が熱心</li> <li>・暗記ではなく、予習重視で授業中に理解を深められたから。</li> <li>・丁寧だったし、専門性が高くおもしろかった。</li> <li>・ディベート、発表形式等、のちのち役立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物でも農業から環境分野まで、またフィールドも幅広かったので、視野を広くもつことができた。</li> <li>・研究に必要な知識の取得に役立ったから。</li> <li>・より専門的な知識を少人数で学べるのでよかった。</li> <li>・実践的なスキルが身に付く講義を受講したかった。系統樹の作り方や統計解析など。</li> <li>・留学生がいるとき英語をどの程度取り入れるか、というところで。</li> <li>・研究にさしきわらない範囲で、十分な知識量が得られたと思うから。</li> <li>・幅広い領域の知識を身につけることができたから</li> <li>・発表を通じ、プレゼンテーション能力が向上した。</li> <li>・評価があいまい。</li> <li>・適切なむずかしさで、勉強になりました。</li> <li>・学部の時よりも踏み込んだ内容だったから。</li> <li>・素晴らしい先生方がそろっており、いろいろとお話を聞くことができたから。</li> <li>・知識はあったのですが、それらの活かし方を学べなかったからです。</li> <li>・色々と知見を広めることができました。</li> <li>・自分の研究テーマに関連する講義が多かったため。</li> <li>・最新の情報やトレンドをわかりやすく説明していたから。</li> <li>・学部よりも深く専門分野を知ることができたため。</li> <li>・自分の世界が広がったので。</li> <li>・それぞれの科目の専門的な内容について学ぶ事が出来た。</li> <li>・学部から発展した授業をうけることができたから。</li> </ul>
平成26年度	平成27年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の講義より実践的なものが多かったため</li> <li>・専門知識を効果的に学べた</li> <li>・一部科目はレポートのみということもあったため</li> <li>・自分が学びたい分野の授業が揃い、内容も充実していた。</li> <li>・小人数で丁寧な説明が行われており、先生と近い距離で授業ができたから</li> <li>・自分の研究分野以外の事を知ることができたから</li> <li>・専門分野とは違う知識を身につけることができたため。</li> <li>・様々な分野があり満足できた。</li> <li>・プレゼンテーションによる発表が多く、内容理解だけでなくプレゼン力も向上した。</li> <li>・自分で選択できる専門分野の範囲が広くまた自分の専門分野においても深く学べる。</li> <li>・I could learn new information related to my study field.</li> <li>・講義だけでなく、フィールドワークを含む実技の科目もあり楽しめた。</li> <li>・他分野の研究を高いレベルで学べたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生へのフォローアップ、評価に先生の支援、支援室が時間と手間をかけてくれているのが分かる。</li> <li>・様々な分野の講義を受けることが出来たから。</li> <li>・割と英語のプレゼンばかりで、学びたい内容について詳しいものがなかった。</li> <li>・発表形式の授業が多く、今後学会などで発表する際の練習になったから。</li> <li>・選択の自由度が高く、自分の専門分野の知見を深めたり、それ以外の知見の幅を広めることが出来た。</li> <li>・英論を訳したり、プレゼンテーションによる発表等多様なことを行い、身に付けることができたため。</li> <li>・専門的な分野に関して集中的に学ぶことができた。</li> <li>・広い範囲で専門的な内容を学べたので、とても楽しかった。</li> <li>・他の研究室の講義も多く存在していたため。講義も様々であり、面白く感じた。</li> <li>・The subject of the master course is satisfactory as if covers important subjects related to the research topics</li> <li>・研究の前提知識が増えた。</li> <li>・自分の研究の参考になったため。</li> <li>・多様な分野の講義があるため。</li> </ul>